

地域で子育てを支えよう ～子どもと親が楽しめるあそびの伝承～

親子の交流の場を創出し、地域ぐるみの子育て支援システムの構築をサポートしています。



新聞紙を使った企画の様子

活動の概要

目的	大学を地域の子育て支援拠点とする / 子育てを日常的・社会的に支える仕組みを整備する
連携メンバー および役割	堺市役所…企画、広報 NPO法人子育てネットみちくさ…活動の主体 関西大学人間健康学部教授 山縣文治…企画、広報、活動場所提供
活動地域	関西大学堺キャンパス
活動期間	2012年～（継続中）
費用	堺市と関西大学との地域連携協力資金

連携の経緯

以前より連携のあった堺市およびNPO法人子育てネットみちくさから、大学のキャンパスを活用した子育て支援事業を実施することについて打診があり連携が開始。関西大学人間健康学部ではスポーツ、福祉をキーワードに地域連携を推進しており、子育て支援の拠点として本学が最適であるとの考えから、山縣を中心に、関西大学堺キャンパスにて事業を実施することとなった。

解決すべき課題

- (1) 子育て支援の仕組み整備
- (2) 親子が集える場所の創出



人形劇の様子

運動会の様子

大学の役割

親子で楽しめる遊びを伝承するプログラムを、NPO法人子育てネットみちくさが中心となって企画。そこに山縣が、専門分野である子育て支援、社会福祉の知見を活かした助言を行っている。

過去の実施内容は以下のとおり。

- (1) 新聞紙を使った企画（くしゃくしゃ びりびり ふ～わふわ）
新聞紙を破って作った山に飛び込むなど、普段家庭ではできない遊びを親子で体験した。
- (2) 夏祭り（みんなであそぼう！わ～いわい！夏まつりだよ～）
お祭り用のうちわづくりやロケット風船づくり、魚つりゲームなど、親子で楽しめる縁日さながらの遊びを提供した。
- (3) 運動会（みんなであそぼう！ フレー！ フレー！ うんどうかいごっこ～）
タオルを使った電車ごっこや玉入れ、かけっこなどの種目を、剣道場、柔道場を活用して実施した。
- (4) 人形劇（みんなであそぼう！ おっくんのぼっくんシアターがやってくる～！）
人形劇「おっくんのぼっくんシアター」を招き、手作りの小道具を使った人形劇を観劇した。
- (5) リズム遊び（リズムでチャチャチャ）
歌のリズムに合わせて動物になりきって、身体を動かしたほか、子育てネットみちくさのメンバーによる、ミュージカル風のエプロンシアター（※）を実演した。

※エプロンシアター…エプロンを舞台に見立てて行う幼児向けの劇。エプロンのポケットからキャラクターが登場し、マジックテープ等でエプロンに貼り付けていき、劇を進ませる。

また、本活動は山縣が所属する人間健康学部の所在地である関西大学堺キャンパスにも波及している。堺キャンパスでは、学生が構成する人間健康学部祭典実行委員会が中心となって「堺キャンパス祭」を開催しており、学生だけでなく地域住民も多数参加している。その実行委員会が山縣に対し、堺キャンパス祭を地域の児童も参加できるイベントにしたいと相談したことを契機として、2014年度から学生と子育てネットみちくさの連携による子ども向けブースが設置されている。

成果

- (1) 保護者が抱える育児への不安や負担感の軽減
- (2) 親子の交流の場の創出
- (3) 地域の子育て支援拠点としてのキャンパスの認知度向上

研究者の紹介



人間健康学部 教授
山縣 文治
(やまがた ふみはる)

学生時代から子ども家庭福祉に関心をもち、教員になってからもその課題を追い続けている。